IBM iのスプールデータからPDFを生成するニーズにいち早く対応し、IBM i市場で高い実績を誇る「UT/400-iPDC」。

最新バージョン「UT/400-iPDC Ver8」では、数多くの機能拡張が実施されたが、ポイントは大きく2つある。

1つは「UT/400ダイレクト印刷オプションfor CANON」との組み合わせにより、プリンタサーバー不要でIBM iからPDFをダイレクトにキヤノン製の複合機やレーザープリンタに印刷できるようになったこと(P111に詳細)。

そしてもう1つは、表現力の高い帳票をよりきめ細かく作り込めるよう、オーバーレイ機能を拡張したことである。その背景には、IBM iの専用プリンタからオープン系プリンタへ、自社仕様で事前印刷したストックフォームからカット紙へ移行し、コストダウンを図ろうというここ数年の動きがある。

開発・販売元であるアイエステクノポートによれば、ストックフォームからカット紙へ移行するに際して、ユーザーの多くはそれまで利用していたストックフォームの帳票デザインに強いこだわりを見せるという。

対外的に長く使用し、いわば取引先に対する「自社の顔」ともいうべき事前印刷帳票のイメージを、カット紙でどこまで再現できるか。あるいは今まで以上の表現力で、「新しい顔」を作り込めるか。それには帳票をきめ細かく設計できるオーバーレイ機能が不可欠である。

そこで最新バージョンでは罫線の太さや位置の微調整、複雑な表の枠組みに対応し、文字関連についても開始位置調整、均等割り付け、文字回転(角度0～355度、5度単位)、条件付き書式英字フォントなどの機能を細かくサポートしている。

英字フォントとしてはArial、Courier、Times New Romanを追加。画像はJPEG以外にBMP、GIF、PNGなどが使用できるようになった。

さらにページごとに異なるオーバーレイを切り替えるマルチオーバーレイの数が1スプール当たり、今までの10種類から30種類に拡張されている。

このほか、コンビニエンスストアの払込用紙などに使用されるバーコード「GS128」へオプションで対応するなど、PDF作成機能、運用関連、連携処理など広範囲に多数の新機能がサポートされている(**図表**)。

IBM iのプリンティングニーズに対する同社の解答が、最新バージョンに結実しているようだ。

図表　UT/400-iPDC Ver8の主な機能拡張

1	**オーバーレイの拡張**	
1-1	罫線関連	位置の微調整
		太さ調整
		点線の点の長さ統一
1-2	文字関連	開始位置、文字間微調整
		文字回転
		文字の均等割付
		条件付き属性指定
		フォント追加
1-3	バーコード関連	GS128追加
		バーコード幅調整
		ブランクトリムの有無
		スタート・ストップコード選択
		設定数上限の変更
1-4	画像関連	画像種類追加
		設定数上限の変更
1-5	その他	マルチオーバーレイ設定数上限の変更
2	**PDF作成機能の拡張**	
2-1	設定パラメータ追加および変更	個別余白調整
		自動実行時のページ範囲指定
2-2	しおり	ダブルバイト文字の対応
2-3	ディレクトリおよびファイル名称	用紙タイプを指定可能
		印字データからの設定数上限の変更
		ディレクトリ名称とPDF名称に同一値を指定
2-4	プロパティ情報の設定	PDF文書プロパティ「概要」を外部指定可能に
3	**運用関連**	
3-1	自動化関連	サブシステム名の変更を許可
		作成ジョブ制御の変更
3-2	IFS上のPDFの処理	削除コマンドの提供
3-3	ログ関連	作成時のログをメッセージコード化
		作成時のログをファイルへ出力
4	**連携処理関連**	
4-1	連携識別	各連携時の時期別IDにスプール属性を指定可能に
		ファイル転送&自動印刷の動的切り替え
4-2	ダイレクト印刷関連	OUTQおよびスプール単位に出力先のプリンタを指定可能に
		複数処理機能でのダイレクト印刷を指定
		スプール単位に制御パターンを指定

UT/400-iPDC Ver8

バージョンアップ　PDF作成ツール

ストックフォームの帳票イメージをオーバーレイ機能できめ細かく作り込む

株式会社アイエステクノポート
▶http://www.istechnoport.co.jp/